

経営比較分析表（平成29年度決算）

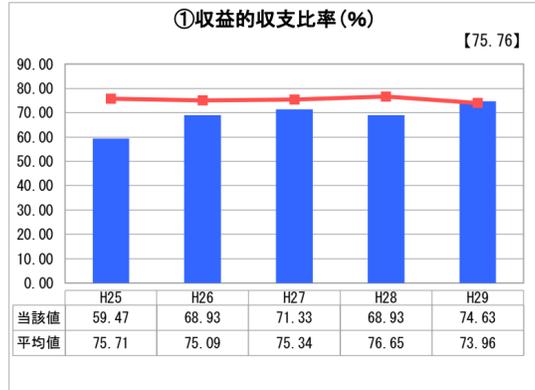
福井県 おおい町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	98.90	2,160	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,296	212.19	39.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,194	4.13	1,984.02

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



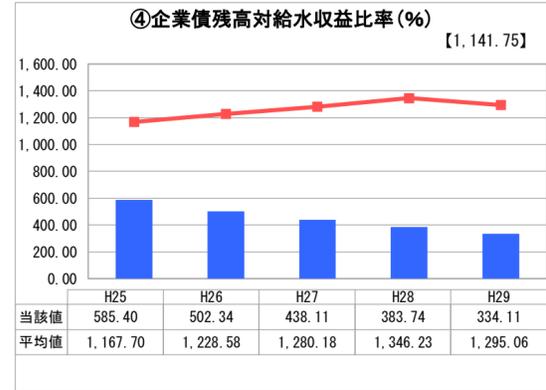
「単年度の収支」



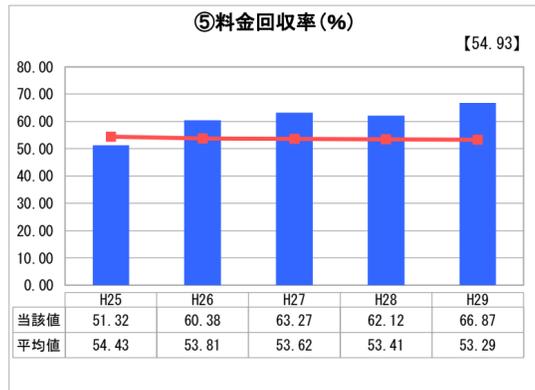
「累積欠損」



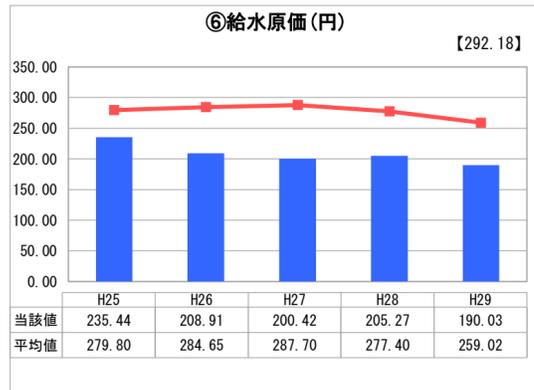
「支払能力」



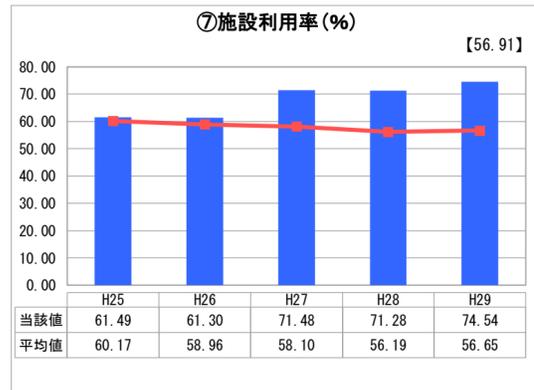
「債務残高」



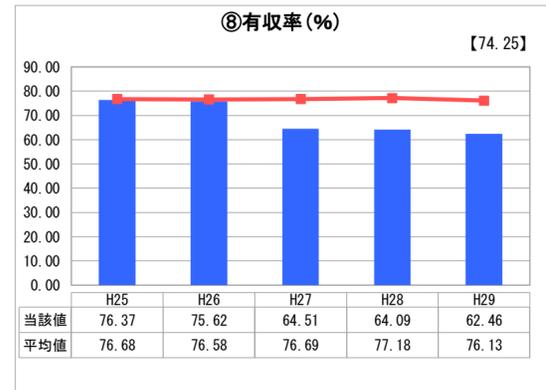
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

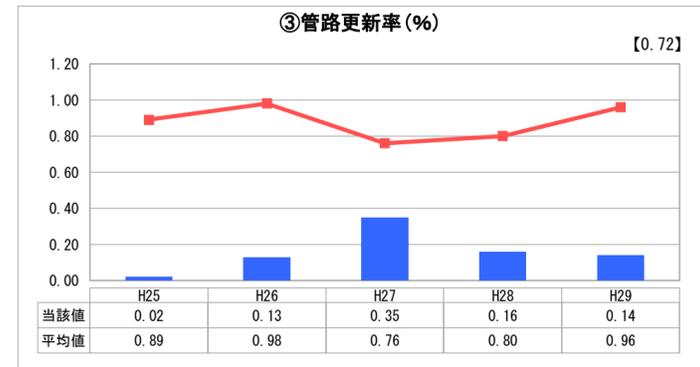
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
新規水道加入、他会計からの充当などが前年に比べあがったため、収支比率が上昇したものと考えられる。

④企業債残高対給水収益比率
事業に対して交付金等を充当したことで借入の抑制と債務残高が減少したことによるものと考えられる。

⑤料金回収率
供給単価としてはほぼ前年並みであるが⑥の給水原価が下がったことで上昇したものと考えられる。

⑥給水原価
前年に比べ総費用としては増加、地方債償還金として減額、合計としてはほぼ前年並みであるが、年間の総収水量が増加したことで給水原価が前年より下がったと考えられる。

⑦施設利用率
機器の老朽化による機能低下や漏水等による施設稼働が大きくなっていると考えられる。

⑧有収率
水道管の老朽化などによる発見しにくい地下漏水のため対処が遅れるのが数値的に出てきているものと考えられる。

2. 老朽化の状況について

水道施設においては、老朽化及び劣化してきているものが多々ある。住民への給水に重大な支障をきたすものから、順次更新や修理を行っている。水道管については、10年以上に法定耐用年数の40年を越えるものが、配水管で約6割になるとともに耐震管又は耐震適合管でない管が多々ある。塩ビ管(VP)を中心とした漏水が年々増加傾向にある。水道管の更新にあたっては、多額の予算が必要となるため、長期的に計画をたて更新を順次行っていく必要があると認識している。

全体総括

ライフラインとして全体的に普及しているものの、整備してから30,40年以上経過し施設の老朽化に伴う修繕、改修が今後増加するものと考えられる。水道管路の更新も多額の予算が必要となる中で、長期的な管路及び施設計画を立て実施していきたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。